

平成19年度

漁業担い手育成基金事業実績報告書

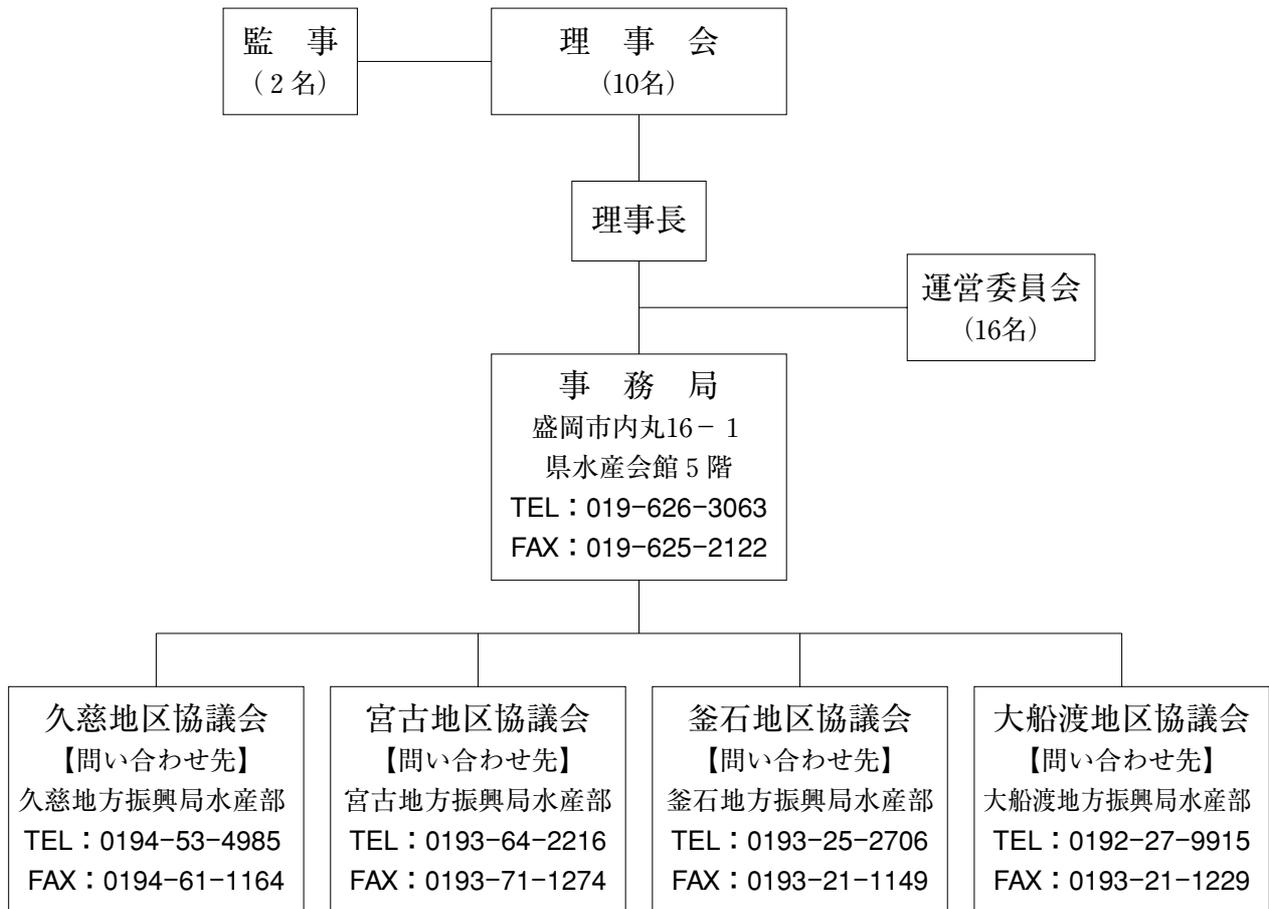
平成20年10月

財団法人 岩手県漁業担い手育成基金

目 次

1	漁業担い手育成基金の組織	1
2	平成18年度事業実施状況	2
3	事業の実績	4
(1)	青少年漁業体験・交流事業	4
(2)	漁業技術・経営研修事業	8
(3)	漁業青壮年・女性活動事業	10
ア	青壮年活動	10
①	試験研究等活動	10
②	漁業青壮年交流活動	19
③	漁業士活動	21
④	地区活動実績発表大会	24
イ	漁業女性活動	28
(4)	異業種間交流事業	32
(5)	特認事業	34
ア	少年海づくり大会事業	34
イ	漁業者等資質向上研修	39
4	地区協議会の運営	42
5	事業実施状況の推移	43
6	漁業担い手育成基金業務方法書	46
7	漁業担い手育成基金業務細則	52

1 (財)岩手県漁業担い手育成基金の組織



役員及び運営委員名簿 (H18. 7. 1現在)

役員

理事長	大井 誠 治	県漁連会長
副理事長	大森 正 明	県水産振興課長
理事	佐々木 昭 夫	県信漁連会長
理事	嶋山 武 男	県漁業共済組合長
理事	上村 勝 利	県漁船保険組合長
理事	庄司 尚 男	県漁信基理事長
理事	工藤 大 輔	県議会議員
理事	小沢 和 夫	釜石市長
理事	沼崎 喜 一	山田町長
理事	横井 修 一	岩手大学教授
監事	向井田 敏 宏	県町村会事務局長
監事	鈴木 邦比古	県信漁連常勤監事

運営委員

委員長	阿部 金 一	大浦漁協組合長
副委員長	渡辺 茂 雄	県水産振興課担当課長
委員	米田 忠 一	野田村産業振興課長
委員	金沢 栄 基	宮古市水産課長
委員	村上 直 光	陸前高田市水産課長
委員	鎌倉 賢 一	普代漁協組合長
委員	佐々木 義三郎	県漁連常務理事
委員	藤島 純 悦	県漁業共済組合参事
委員	佐藤 喜久男	共水連県事務所長代理
委員	吉水 クミ子	指導漁業士
委員	小国 泰 明	県漁業士会長
委員	道下 孝 人	青年漁業士
委員	吹切 守	JF漁青連会長
委員	倉兼 賢 治	宮古水産高校長
委員	井ノ口 伸 幸	水産技術センター副所長
委員	大村 益 男	県漁港漁村課担当課長

2 平成18年度事業実施状況

(1) 青少年漁業体験・交流事業

将来を担う漁業後継者の育成・確保に資するため、県内の海づくり少年団等が行う漁業体験学習などの活動20件に対し助成を行った。また、水産高校のクラブ活動等6件に対し助成を行った。

表1 青少年漁業体験・交流事業実績

事業内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1 漁業体験学習等	20	165	164	5,031
2 水産高校1日体験入学	3	3	3	452
3 水高クラブ活動	3	3	3	249
計	26	171	170	5,732

(2) 漁業技術・経営研修事業

漁業担い手の資質の向上を図るため、JF漁青連が行う国内研修等3件に対し助成を行った。

表2 漁業技術・経営研修事業実績

研修内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1 国内研修 フォークリフト実技講習 ほか	3	3	10	20

(3) 漁業青壮年・女性活動事業

漁業経営の改善や地域の活性化等の促進を図るため、漁村青壮年グループ及び漁業女性グループが行う試験研究や交流活動等21件に対し助成を行った。

表3 漁業青壮年・女性活動事業

事業内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1 試験研究等活動	7	—	4~3月	(72)
2 青壮年交流活動	3	5	5	149
3 漁業士活動	2	3	5	83
4 地区活動実績発表大会	4	4	4	286
5 漁業女性活動	5	7	9	187
計	21	18	20	705

(4) 異業種間交流事業

漁業青壮年の多様な知識の向上を図るため、他産業従事青壮年との交流活動3件に対し助成を行った。

表4 異業種間交流事業

交流内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
水産加工、農林業青年との交流会	2	3	3	63

(5) 特認事業

ア 沿岸4地区で少年団の交流及び海づくり大会を開催し、1少年団の結成活動を支援した。

イ 漁業者等資質向上研修として、県女性部大会の講演及び漁業士の研修として、異常冷水シンポジウムを開催し資質向上を図った。

表5 少年海づくり大会等実績

大会名称	開催時期	開催場所	少年団数	参加人数
大船渡地区海づくり少年団交流大会	8月1日	北里大水産学部	3	132
釜石大槌地区少年団交流会	8月5日	釜石湾泉地区	6	155
宮古地区少年団海づくり交流大会	8月6日	水産科学館・浄土ヶ浜	6	108
久慈地域少年海づくり大会	6月4日	普代大田名部漁港	7	198
計			22	593

3 事業の実績

(1) 青少年漁業体験・交流事業

ア 児童・生徒等の漁業体験学習・交流活動

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
広田マリンキッズ隊 	1 「海と山ふれあいの森づくり2006in大森山」 植樹祭	陸前高田市 大森山	5/9	38名
	2 田谷浜・箱根山清掃	田谷浜・ 箱根山	6/6	23名
	3 ホタテ耳づくり体験	広田	6/7	37名
	4 松原ごみ拾い、清掃工場・浄化センター見学	陸前高田市	7/19	37名
	5 地曳網体験	田谷浜	7/21	25名
	6 大船渡地区海づくり少年団交流大会	北里大学	8/1	33名
	7 栽培漁業協会見学	大船渡市	8/25	29名
	8 海藻標本作り	陸前高田市	9/8	38名
	9 サケ新巻作り	水産高校	12/12	33名
蛸ノ浦海づくり少年団 	1 サケ稚魚放流	盛川	4/26	34名
	2 アサリの育成調査	蛸ノ浦	4/28	99名
	3 江の丸・船磯海岸清掃	江の丸・ 船磯海岸	6/13	99名
	4 珊瑚島探検	珊瑚島	7/7	66名
	5 飛鳥Ⅱ歓迎セレモニー	大船渡市	7/19	48名
	6 大船渡地区海づくり少年団交流大会	北里大学	8/1	18名
	7 クロダイ放流	蛸ノ浦漁港	10/10	34名
	8 サケ新巻作り（漬け込み作業）	蛸ノ浦漁協	11/17	48名
	9 サケ新巻作り（洗い落とし作業）	蛸ノ浦漁協	11/21	48名
	10 富美岡荘訪問	大船渡市	12/1	32名
甫嶺海づくり少年団 	1 サケ稚魚放流	大船渡市	4/12	4名
	2 ホタテ養殖作業（耳吊り）	鬼沢漁港	6/6	11名
	3 ホタテ養殖作業（ホタテ洗い）	鬼沢海岸沖	11/1	11名
	3 甫嶺川の水質調査（4回）	甫嶺川	5/10	21名
		甫嶺川	8/25	21名
		甫嶺川	11/20	21名
		甫嶺川	2/5	21名
	4 鬼沢海岸清掃	鬼沢海岸	8/23	34名
	5 大船渡地区海づくり少年団交流大会	北里大学	8/1	22名
	6 EMボカシによる給食残滓処理作業	小学校	-	22名
7 廃油石鹸作り	小学校	11/7	5名	

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
唐丹かもめ少年団	1 ふれあい教室：サケの稚魚放流会 2 海岸清掃・漂流物調査：ゴミ拾い、分別 3 廃油石けんづくり：食用油での石けん制作 4 サケのふ化場見学：片岸川ふ化場	片岸川 片岸海岸 学 校 片岸川	4月 6月 2月 12月	全生徒 全生徒 5年生 3年生
尾崎うみの子少年団	1 尾崎海学習：海辺の生物観察 2 清掃活動：海岸清掃、道路清掃 3 ワカメ漁業体験学習：種まき、塩蔵、芯抜き 4 新巻づくり：サケの裁き、水洗い乾燥 5 海の子版画カレンダーづくり：版画作成	尾崎白浜 尾崎白浜 佐 須 漁 協 学 校	7、11月 7、10月 12、3月 12月 12月	1～4年生 全生徒 高学年 高学年 高学年
箱崎マリンキッズ	1 海岸清掃活動：ゴミ拾い 2 海水浴場清掃：ゴミ拾い 3 廃品回収活動：空き瓶、アルミ缶 4 海の子自然教室：漁港、海岸見学 5 交流活動：橋野小学校森林愛護少年団 6 新巻づくり：サケの裁き、水洗い乾燥	箱 崎 小 白 浜 箱 崎 箱 崎 学 校 漁 協	4、11月 7、8月 8月 9月 10月 11月	全生徒 全生徒 全生徒 全生徒 全生徒 4～6年生
白浜海づくり少年団	1 ワカメ体験学習：種付け、収穫、芯抜き 2 清掃活動：海岸清掃、道路清掃 3 親子海釣り大会：船と岸壁釣り 4 地域探検：仮宿地区 5 新巻づくり：サケの裁き、水洗い乾燥 6 伝承の集い：郷土芸能と料理	箱崎白浜 箱崎白浜 箱崎白浜 仮 宿 漁 協 仮 宿	7～3月 4、6月 6月 6～7月 12月 7月	全生徒 全生徒 全生徒 3～4年生 5～6年生 全生徒
安渡海洋少年団	1 新山高原まつり：植樹活動 2 海岸一斉清掃：安渡地区 3 さけふ化場見学：大槌川ふ化場 4 水産加工場見学：遠藤水産 5 親子料理教室：大槌町漁協女性部指導 6 新巻づくり：民宿六大工にて実習	新 山 安 渡 大 槌 川 安 渡 小 学 校 安 渡	6月 6月 11月 11月 12月 12月	6名 全生徒 2～4年生 3年生 5年生 6年生
織笠海づくり少年団 	・水生生物調査（織笠川） ・サケ体験学習 （採卵・受精・稚魚飼育放流・新巻作り） ・環境美化 （ゴミ拾い、花壇作成、自然観察）	山 田 町	4～12月	延564名
赤前海づくり少年団 	・総合的学習「赤前の海」 （藻場観察・磯あそび、ヒラメ稚魚放流、河川環境・水生生物調査、海岸清掃、海洋スポーツ体験、漁業体験）	宮 古 市 赤 前	6～10月	延456名

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
重茂海づくり少年団 	・サケ新巻作り体験 ・サケ稚魚等飼育（ミニ水族館）	宮古市 重茂	12月	延156名
小本海づくり少年団 	・サケの生態学習 （サケの生態、遡上見学、採卵体験、ふ化場 見学、稚魚放流、水質調査） ・環境美化 ・植樹祭参加	岩泉町 小本	6～3月	延375名
島越海づくり少年団	・新巻鮭づくり体験	田野畑村	12月	延80名
羅賀海づくり少年団	・新巻鮭づくり体験	田野畑村	12月	延128名
田野畑中学校	・ウニの採捕・殻剥体験	田野畑村	7月	48名
堀内海づくり少年団	・さけ稚魚放流体験 ・久慈地域少年海づくり大会 ・わかめの胞子観察 ・海浜清掃 ・わかめ刈り取り体験（高波のため中止）	ふ化場 普代村 小学校 堀内	4/27 6/4 7/18 7/19 (3/5)	16名 16名 16名 22名
野田村海づくり少年団 	・久慈地域少年海づくり大会 ・安家川流域環境保全推進事業に参加 （河川清掃、河川生物観察、ヤマメ放流、交流） ・野田ホタテまつりに参加 （ホタテ養殖について学 習） 	普代村 岩泉町 （安家） 野田村	6/4 10/14 12/2	17名 16名 8名
久喜海づくり少年団 	・海浜清掃 ・久慈地域少年海づくり大会 ・夏休み漁業体験 （定置網見学、船こぎ、ウニ採り、ウニむき体験） ・ウニ種苗生産施設（栽培漁業協会）見学 （ウニの生態と栽培漁業の概要を学習） ・サケ新巻とイクラ作り体験	久喜 普代村 久喜 洋野町 久喜	5/30 6/4 7/27 8/30 11/16 11/22	39名 18名 39名 8名 18名

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
 <p>長内海づくり少年団</p>	・長内海づくり少年団の結団式	小学校	5/30	27名
	・久慈地域少年海づくり大会	普代村	6/4	28名
	・ウニむき体験 (ウニの体について学習、ウニむき、試食)	久慈市	7/30	16名
	・サケ新巻作り体験	久慈市	11/25	12名
<p>中野海づくり少年団</p>	・サケの放流学習 (稚魚放流、サケの成長)	ふ化場	4/28	57名
	・久慈地域少年海づくり大会	普代村	6/4	25名
	・有家川探検 水質調査	有家川	8/25	35名
	水質調査、水生生物調査、地形調査、川下り		8/31	35名
	同上		9/5	35名
	同上		9/13	35名
・サケの採卵学習 (採卵体験、受精の見学、ふ化場の見学)	ふ化場	10/24	22名	
<p>宿戸海づくり少年団</p>	・久慈地域少年海づくり大会	普代村	6/4	26名
	・水産教室 干出岩盤上の生物観察、つくり育てる漁業の学習、ウニの体の学習、ウニむき体験	宿戸	6/12	21名
	・浜の清掃活動 (小学校から浜までの道、浜)	宿戸	7/20	144名
	・浜の清掃活動(同上)	宿戸	11/8	144名
 <p>広田水産高等学校</p>	管内中学生を対象とした一日体験入学を実施 1 海洋実習体験(水上オートバイ、小型船舶体験乗船) 2 食品製造実習体験(焼きちくわ、缶詰製造体験)	広田水産 高校、 田谷浜	7/27	31名
 <p>宮古水産高等学校</p>	・一日体験入学 (リアス丸体験航海・食品製造実習・手芸実習・調理実習)	宮古市	7月	252名
<p>久慈東高等学校</p>	・実習船リアス丸及び小型船舶の乗船体験 対象；小中学生を含む一般市民 リアス丸は午前と午後の2回、小型船舶は午後に久慈湾を周航した。	久慈湾	7/27	125名

イ 高校クラブ活動等

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
 広田水産高等学校	1 小友浦海域の藻場調査 ・藻場の繁茂状況調査 ・海洋環境調査（水温、塩分濃度、溶存酸素量等）	小友浦海域	4～12月	9名
	2 水産物の有効利用研究 ・イサダを使った魚醤油開発	広田水産 高 校	4～2月	10名
宮古水産高等学校	・宮古湾の環境調査 ・未利用魚加工試験	宮古市	4～1月	延180名
 岩泉高校田野畑校	・サケの新巻作り体験実習	田野畑村	12月	延62名

(2) 漁業技術・経営研修事業

課題名	フォークリフト運転講習会		
実施主体	J F 岩手漁青連上閉伊支部	構成員数 (うち参加者数)	94人 (8人)
総事業費	160,000 円	うち基金助成額	80,000 円
事業の目的	漁業者の技術向上及び資格取得により就業範囲の拡大を図る。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成18年6月27日～30日、7月3日～5日 場 所：釜石市片岸町 釜石職業訓練協会 ・釜石職業訓練協会が実施する運転技能講習を受講し、併せて資格試験を受験した。 （岩手労働局の安全衛生法施行令第20条に基づく講習会） ・8名受講（参考：ほかに8名が自費参加）。		
結 果	(1) 学科試験と実技試験で構成、8名全員が資格を取得した。 (2) 資格取得により、荷重1t以上のフォークリフト運転が可能となり、共同作業等による作業性の向上、有資格者による労働安全の確保が期待される。		

課 題 名	海産物（コンブ等）の品質、消費動向に関する視察研修		
実施主体	JF岩手漁青連下閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(6名)
総事業費	105,917 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	海産物買い付け流通加工に携わる商社の研修視察を通じて、昆布等の品質格付け、加工、消費者の嗜好動向を研修し、今後の生産技術と品質向上を目指し青年部活動における試験活動の参考にする。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成19年3月1日～2日 場 所：(株)大平昆布 宮城県栗原郡 参加者：JF岩手漁青連下閉伊支部（田老町漁協青年部 6名）		
結 果	<p>・研修所感</p> <p>生産者として製品作りに追われ消費者がどのような商品を求めているかを考える事が少ない状況にあるなか、今回の研修によって、良い製品作りと並び、もう少し外に目を向けながら消費者の求めている製品作りに取り組んでいく必要性を感じた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
課 題 名	パソコン研修		
実施主体	JF岩手漁青連下閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(6名)
総事業費	55,725 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	パソコン研修（インターネット）により習得した技術を応用し、今後の漁業研究活動および活動発表に役立てる。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成19年3月29日 場 所：NTT宮古 研修室 参加者：JF岩手漁青連下閉伊支部		
結 果	<p>今回のパソコン研修にて習得したインターネットや電子メールの利用方法を活用して流通動向や消費者の嗜好を把握し、生産品目の改善および品質向上に役立てるとともに、会員間の情報交換および漁業知識向上に役立てたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 受講風景1 受講風景2 </div>		

(3) 漁業青壮年・女性活動事業

ア 青壮年活動

① 試験研究等活動

課 題 名	エゾイシカゲガイの養殖試験		
実 施 主 体	広田湾漁協青壮年部米崎支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(12名)
総 事 業 費	279,075 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	新たな養殖対象種としてエゾイシカゲガイの養殖技術の確立		
材 料 及 び 方 法	<p>1 養殖試験（養殖密度の検討） 2次分散（採苗2年目春）から3次分散（採苗2年目秋）までの期間の飼育密度（1タライあたり、40、60、80個区の上段区及び下段区）による、成長・生残を調べた。</p> <p>2 需用動向調査及び初出荷 東京築地市場での需用動向について調査した（研究会3名、漁協1名、県1名）。また平成16年度採苗群を初出荷した。</p> <p>3 成分分析 軟体部の一般成分とエキスアミノ酸について成分分析を行った。</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>1 養殖試験（養殖密度の検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 殻長は、上段においては各区の差は見られなかったが、下段においては密度がたかくなるにつれて殻長が小さくなる傾向が見られた。 ・ 重量は、上段では80個区が低く、40、60個区では大きな差はなかった。下段では収容密度が低いほど重量が増える傾向が見られた。 ・ 生残率は全ての区で90%以上であった。 ・ 以上から2次分散から3次分散までは、1タライ当たり40～60個収容が妥当と考えられた。 <p>2 需用動向調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エゾイシカゲガイは冷凍品や加工品が輸入されているが、活貝での入荷は広田湾産のものしかない。 ・ 広田湾産のものは品質が良いものの、量が少ない。 ・ 1日200kgをコンスタントに出してもらいたい。（どんどん作ってほしい） ・ 平成18年10月3日に築地市場に158kg出荷した。（売り上げ金額363,400円、キロ単価2,300円） <p>3 成分分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本種軟体部100g（乾物当量）には、タウリン4,477mg、グリシン3,445mg、アルギニン1,621mgが含まれており、次いでグルタミン酸が285mg含まれていた。 ・ タウリンは一般的に、シジミやアサリに多いと言われています。しかし、シジミやアサリに含まれる量はそれぞれ110mg、380mgで、エゾイシカゲガイはそれらよりも大量のタウリンが含まれていることが判明した。 ・ 以上のことから、成分の季節変化について確認する必要がある、本種には体に良い成 		

分が多く含まれていることが示され、食品として魅力的であると考えられた。

4 課題等

- ・ 養殖資材（発砲スチロールタライ、砂）は価格が高く、新規参入の妨げになっており、砂よりも軽い資材、他の材質のタライの利用を検討する必要がある。
- ・ コストを削減し、広田湾での生産量を増やし、広田湾ブランドの形成を図る必要がある。

結果及び
考察



課 題 名	マガキ天然採苗試験		
実 施 主 体	広田湾漁業協同組合青壮年部小友支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(13名)
総 事 業 費	74,218 円	うち基金助成額	70,000 円
事業の目的	カキのブランド化を目指し、地場での天然採苗を試みる。		
材 料 及 び 方 法	<p>マガキの効率的な地場採苗を可能にするため、小友地区におけるマガキラーバの出現個体数と採苗器への付着稚貝数の関係について調査した。</p> <p>1 マガキラーバ調査</p> <p>4 地点（定点）において、7月21日から9月4日にかけて10回調査し、ラーバ出現数を調べた。</p> <p>2 付着稚貝数調査</p> <p>採苗器（ホタテ原盤70枚／連×500連）を8月25、28、9月1、15日の4日に2地点（水深2m）に投入（垂下）し、12月12日に原盤での付着稚貝数を計数した。</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>1 マガキラーバ調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラーバは7月下旬から観察されはじめ徐々に増加し、9月上旬にピークを向かえた。（昨年度と同様の傾向） ・ ラーバの発生量は昨年度調査（最高値で142個）と比べ非常に多い値（最高値で8,442個）を示した。 ・ ラーバの出現割合は、8月上旬には湾奥側が高く、9月上旬のピーク時には湾中央側が高かった。 ・ 以上から当地区におけるマガキラーバの発生量は8月末～9月頭がピークになると考えられた。 <p>2 付着稚貝数調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原盤1枚当たりの付着稚貝数は、17.3～41.9個であった。 ・ 付着数は9月1日に投入した採苗器で最も多い値（41.9個）を示した。（昨年度は8月30日が最も高い値を示した） ・ 以上から当地区ではラーバ発生量が最も多い時期（8月末～9月頭）にあわせて採苗器を投入することによって効率的に採苗することができると考えられた。 <p>3 課題等</p> <p>今後継続的に成育状況を観察し、従来種苗（宮城県産種苗）との成長・生残等について比較検討する必要がある。</p>		
			

課 題 名	ヒジキ養殖試験		
実 施 主 体	甫嶺養殖研究会	構 成 員 数 (うち参加者数)	(10名)
総 事 業 費	83,295 円	うち基金助成額	70,000 円
事業の目的	新しい養殖漁協の対象としてヒジキ養殖の可能性を試験する。		
材 料 及 び 方 法	<p>1 完全な藻体を用いた養殖実験</p> <p>平成16年11月に養殖実験用ロープのうち長さ60mに越喜来湾に生育していた天然ヒジキの完全な藻体を5cm間隔で固定して対象区とした。また当該ロープの長さ2mに対象区と同様に天然ヒジキの完全な藻体を5cm間隔で固定して実験期間中に出現した大型褐藻のマコンブを刈り取ったコンブ類除去区を設定した。平成17年8月と平成18年6月に両区それぞれ4カ所からヒジキの主枝(可食部)を収穫し湿重量を測定した。また実験用ロープに付着していたマコンブとムラサキイガイも採取して湿重量を測定した。</p> <p>2 付着器のない藻体を用いた養殖実験</p> <p>平成17年10月に越喜来湾内の天然ヒジキ群落に付着器を残して藻体(主枝と茎)を採取し、実験用ロープ(30cm)3本に1cm間隔で固定した。この実験ではロープへの他生物の付着を防ぐために2週間毎に2分間の淡水処理を行った。淡水処理を容易にするために前述の水平に設置されたロープから50cm間隔で実験用ロープを垂下した。ヒジキの主枝は平成18年6月に実験用ロープ10cm毎に前述の実験と同様の方法で収穫しその湿重量を測定した。</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>1 完全な藻体を用いた養殖実験</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象区、コンブ類除去区ともに平成17年収穫後の夏期からムラサキイガイの付着が見られ、平成18年6月の収穫時には実験用ロープを覆うまでに生長した。 1年目(平成17年)のヒジキの収穫量は対照区で0.6kg/m、コンブ除去区で0.8kg/mと差はなかったが、コンブ除去区の2年目(平成18年)の収穫量は3.5kg/mに増加した。 一方対照区では1年目と2年目の収穫時にそれぞれ3.4kg/m、4.8kg/mのマコンブが付着していた。 ムラサキイガイは両区の1年目の収穫時には見られなかったが2年目の収穫時には対照区で5.4kg/m、コンブ除去区で1.9kg/mに達した。さらに収穫後の実験用ロープに付着していたヒジキはほとんどなく、ムラサキイガイの足糸の間に付着器を伸ばして藻体を支えていただけの大部分のヒジキはムラサキイガイとともに実験用ロープから外れた。 <p>2 付着器のない藻体を用いた養殖実験</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験開始翌月の11月には多くの藻体の茎から付着器が再生され平成18年1月までに急激に伸長して実験用ロープの大部分を覆った。 藻長はほぼ継続的に増加したが、平成18年3月と5～6月に急激な伸長が見られ(6月に平均48cm)、6月には平均3.3kg/mの主枝が収穫された。 実験開始直後の平成17年12月と収穫時の平成18年6月には再生された付着器から多数 		

の茎が形成され、8月には平均約150本/mに達した。一方収穫後の藻長には8月まで大きな変化はなかった。

- ・ 養殖ロープにマコンブの出現はなく、収穫時（6月）にムラサキイガイは観察されなかったが、8月には小型のムラサキイガイが多数見られた。

3 課題等

- ・ 淡水処理によりコンブは除去できるもののムラサキイガイは除去できない状態であった。温水処理によりムラサキイガイの除去が期待できるもののヒジキ自体が死滅する可能性もあることから、今後、温度、時間等考慮し、作業効率のよい雑物除去方法を確立する必要がある。



結果及び
考察

課 題 名	イワガキ養殖試験		
実 施 主 体	釜石湾漁協青年部	構 成 員 数 (うち参加者数)	28名 (28名)
総 事 業 費	172,250 円	うち基金助成額	90,000 円
事業の目的	イワガキ養殖試験を実施し、新たな販路の拡大と企業化について検討する。		
材 料 及 び 方 法	<p>1 イワガキ養殖試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 青出浜漁場においてイワガキ養殖試験を平成11年度から継続実施。 平成18年度は、栽培漁業協会より種苗を15連（4500個）購入。 <p>2 販路開拓調査（視察研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台のカキ業者を訪問し、宮城県のカキ流通状況の聞き取り調査を実施。併せて新規取引にかかる商談を行った。 		
結 果 及 び 考 察	<p>1 イワガキ養殖試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成15年度の初出荷から4年目の出荷となった。 養殖個数は、20,000個に到達（うち、250g以上の出荷可能個数は5,000個） 千葉県漁協直営レストランへ継続出荷（220円/個 殻付き300g以上） <p>2 販路開拓調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台業者への視察研修により宮城県の需要動向を確認。 視察先：宮城県塩釜市 株松木かき店 カキの年間取扱量は約100万個、このうち宮城産70万個、岩手産30万個で、釜石湾漁協のカキを含む。イワガキはカキ（マガキ）の出荷が終わる2月頃から8月のお盆過ぎまでの需要に当てたい。 業者との商談により新規に年間6,000個以上の受注に成功（供給可能個数の関係から、4,000個の出荷で合意。単価：300gサイズの大250円/個） 		
			

課 題 名	ホヤ養殖試験（人工採苗試験）		
実 施 主 体	大槌町漁協青年部	構 成 員 数 (うち参加者数)	16名 (16名)
総 事 業 費	69,412 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	供給が不安定となっているホヤ種苗について、採苗試験（天然採苗、人工採苗）を実施し、採苗技術の確立を図る。		
材 料 及 び 方 法	<p>1 天然採苗試験：吉里吉里、大槌の各湾にカキ殻採苗器を計9連投入し、付着状況の確認により天然採苗の最適場所を探索する。投入場所は、天然ホヤの付着が顕著に見える場所とした。</p> <p>2 人工採苗試験：水技セ増養殖部の指導協力により、陸上水槽内に収容した親ホヤ200個（船越湾吉里吉里産）から採苗を試み、産卵状況を観察、産卵条件を検討した。シュロ縄、カキ殻の採苗器を準備し、採苗を図った。</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>1 天然採苗試験：平成18年12月にカキ殻採苗器を投入、平成19年3月に付着状況の確認を行ったが、種苗の付着はわずかに確認された程度で、種として活用できる採苗状況には達していなかった。</p> <p>2 人工採苗試験：採苗試験を1月16日から開始し、1月26日までに放卵、放精を確認、採苗、受精を確認した。得られた受精卵を収容池に移し、付着させた。シュロ縄1,500mに217,500の幼生付着を確認（145個/m 採苗率9%）、カキ殻（20連）に推定で250,000の幼生が付着された。</p> <p>3 2月17日にシュロ縄とカキ殻の採苗器を沖だし、約10m水深に垂下した。 平成19年6月4日、垂下した採苗器を確認、3～4mmサイズの小型ホヤがシュロ縄で11個/m、カキ殻で170個/個と、ともに高い密度で付着、成長していることを確認した。</p>		

課 題 名	カキ漁場環境調査																																																																																																											
実 施 主 体	宮古漁協青壮年部		構 成 員 数 (うち参加者数)	58名 (58名)																																																																																																								
総 事 業 費	89,616 円	うち基金助成額	70,000 円																																																																																																									
事業の目的	宮古漁協管内で重要な漁業となっているカキ養殖漁業の将来を見据え、海水・殻付カキ検査を行い、現在の加熱用カキ販売に加え、生食用としての販売可能性を見出す。																																																																																																											
材 料 及 び 方 法	<p>1 方 法</p> <p>宮古漁協管内の内湾カキ養殖漁場（宮古浦一区117号、津軽石前一区118号）の殻付カキおよび外洋・内湾カキ養殖漁場（日出島一区115号、宮古浦一区117号、津軽石前一区118号）の海水を採取し検査機関に依頼検査を行う等、漁場環境調査を実施した。</p> <p>2 調査日</p> <p>平成18年12月20日、平成19年1月17日</p>																																																																																																											
結 果 及 び 考 察	<p>調査した殻付カキはいずれも食品衛生法で定められた生食用カキの成分規格を満たしていた。</p> <p>また、養殖漁場の海水は1月17日に実施した津軽石前一区118号漁場0m層の大腸菌の数値が高く、これは実施日の前日と当日に若干の降雨があったため、生活雑排水等が流入し、表層の数値が高くなったと思われたが、他漁場の0m層および5m層では数値に極端な違いは見られなかった。</p> <p>以上から、宮古湾カキを生食用として出荷するには、殺菌海水等による浄化が必要であると考えられ、今後は浄化条件等について検討が必要である。</p> <p>表1 殻付かきの検査結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">宮古浦 (117号)</th> <th colspan="2">津軽石前 (118号)</th> <th rowspan="2">成分規格</th> </tr> <tr> <th>H18.12.20</th> <th>H19.01.17</th> <th>H18.12.20</th> <th>H19.01.17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>細菌数(/g)</td> <td><300</td> <td>4.1×10²</td> <td><300</td> <td>2.0×10³</td> <td>50,000/g 以下</td> </tr> <tr> <td>E.coil 最確数(/100g)</td> <td>230</td> <td>18未満</td> <td>230</td> <td>18未満</td> <td>230/100g 以下</td> </tr> <tr> <td>ビブリオ最確数(/g)</td> <td>3.0未満</td> <td>3.0未満</td> <td>3.0未満</td> <td>3.0未満</td> <td>100/g 以下</td> </tr> <tr> <td>O-157</td> <td>陰性</td> <td>陰性</td> <td>陰性</td> <td>陰性</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2 漁場環境調査結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">水深</th> <th rowspan="2">調査項目</th> <th colspan="2">日出島 (115号)</th> <th colspan="2">宮古浦 (117号)</th> <th colspan="2">津軽石前 (118号)</th> <th rowspan="2">成分規格</th> </tr> <tr> <th>H18.12.20</th> <th>H19.01.17</th> <th>H18.12.20</th> <th>H19.01.17</th> <th>H18.12.20</th> <th>H19.01.17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">0m</td> <td>大腸菌群最確数</td> <td>7.8</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> <td>1,800</td> <td rowspan="3">70/100ml 以下</td> </tr> <tr> <td>水温 (℃)</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>比重</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>23</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">5m</td> <td>大腸菌群最確数</td> <td>7.8</td> <td>1.8未満</td> <td>1.8未満</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> <td rowspan="3">70/1,000ml 以下</td> </tr> <tr> <td>水温 (℃)</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>比重</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td></td> <td>透明度 (m)</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※大腸菌群最確数の単位：MPN/100ml</p>					宮古浦 (117号)		津軽石前 (118号)		成分規格	H18.12.20	H19.01.17	H18.12.20	H19.01.17	細菌数(/g)	<300	4.1×10 ²	<300	2.0×10 ³	50,000/g 以下	E.coil 最確数(/100g)	230	18未満	230	18未満	230/100g 以下	ビブリオ最確数(/g)	3.0未満	3.0未満	3.0未満	3.0未満	100/g 以下	O-157	陰性	陰性	陰性	陰性	-	水深	調査項目	日出島 (115号)		宮古浦 (117号)		津軽石前 (118号)		成分規格	H18.12.20	H19.01.17	H18.12.20	H19.01.17	H18.12.20	H19.01.17	0m	大腸菌群最確数	7.8	4.5	4.5	4.5	4.5	1,800	70/100ml 以下	水温 (℃)	12	7	12	-	12	5	比重	24	24	23	17	23	10	5m	大腸菌群最確数	7.8	1.8未満	1.8未満	4.5	4.5	4.5	70/1,000ml 以下	水温 (℃)	13	9	13	9	13	9	比重	24	24	24	23	24	21		透明度 (m)	15	13	5	5	5	5	
	宮古浦 (117号)		津軽石前 (118号)			成分規格																																																																																																						
	H18.12.20	H19.01.17	H18.12.20	H19.01.17																																																																																																								
細菌数(/g)	<300	4.1×10 ²	<300	2.0×10 ³	50,000/g 以下																																																																																																							
E.coil 最確数(/100g)	230	18未満	230	18未満	230/100g 以下																																																																																																							
ビブリオ最確数(/g)	3.0未満	3.0未満	3.0未満	3.0未満	100/g 以下																																																																																																							
O-157	陰性	陰性	陰性	陰性	-																																																																																																							
水深	調査項目	日出島 (115号)		宮古浦 (117号)		津軽石前 (118号)		成分規格																																																																																																				
		H18.12.20	H19.01.17	H18.12.20	H19.01.17	H18.12.20	H19.01.17																																																																																																					
0m	大腸菌群最確数	7.8	4.5	4.5	4.5	4.5	1,800	70/100ml 以下																																																																																																				
	水温 (℃)	12	7	12	-	12	5																																																																																																					
	比重	24	24	23	17	23	10																																																																																																					
5m	大腸菌群最確数	7.8	1.8未満	1.8未満	4.5	4.5	4.5	70/1,000ml 以下																																																																																																				
	水温 (℃)	13	9	13	9	13	9																																																																																																					
	比重	24	24	24	23	24	21																																																																																																					
	透明度 (m)	15	13	5	5	5	5																																																																																																					

課 題 名	アワビ養殖実証試験		
実 施 主 体	二子漁業研究会	構 成 員 数 (うち参加者数)	14名 (14名)
総 事 業 費	379,785 円	うち基金助成額	200,000 円
事業の目的	久慈市漁協二子地区においてアワビ養殖の可能性を検討した。		
材 料 及 び 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1 試験実施期間 平成18年5月22日から平成19年3月末(継続中) 2 試験実施場所 久慈市漁協 第一種区画漁業権第7号(二子)漁場 3 養殖施設の概要 延縄式養殖施設、蓋付きカゴによる垂下養殖 4 養殖アワビ アワビ人工種苗(殻長35~50mm)700個 5 給餌 近隣漁協で養殖されたワカメ、コンブの残滓、及び、二子生産部が養殖したコンブを給餌 		
結 果 及 び 考 察	<ol style="list-style-type: none"> 1 養殖試験開始時(平成18年5月22日) <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均殻長42mmのアワビ700個を、蓋付きカゴ20個に収容し、養殖施設に垂下した。(収容密度は1カゴあたり35個) 2 途中経過 <ul style="list-style-type: none"> ・ 給餌は、4日に1回程度実施した。 ・ 選別、分散を4回実施した。 ・ 選別の都度、殻長70mm程度のものを随時出荷した。 ・ 販売先;毎月第3土曜日に実施した「土曜朝市」で直接消費者へ随時、市内の飲食店へ 3 18年度末までの結果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総販売個数は320個、重量は約16kg ・ 販売金額は128,000円(1個あたり400円で販売した。) ・ 残りは、15カゴに収容して飼育を継続中 4 課題・問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育中に殻長、体重を計測し、成長を把握する必要がある。 ・ 分散作業に併せて総重量計測し、生残個数を把握する必要がある。 ・ 給餌した回数や量を整理し、管理経費を含めた経済性を検討する必要がある。 		
			

② 漁業青壮年交流活動

課 題 名	JF 岩手漁青連気仙支部研修会		
実 施 主 体	JF 岩手漁青連気仙支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(61名)
総 事 業 費	105,315 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	会員の資質向上を図る。		
期日、場所 参加者等	<p>1 日 時 平成19年1月19日(金) 15:00~17:15</p> <p>2 場 所 大船渡市「大船渡市プラザホテル」</p> <p>3 参加者 61名(漁青連気仙支部会員51名、その他10名)</p>		
結 果	<p>1 講演 「異常冷水マニュアルについて」 (水産技術センター 首席普及指導員 野田口 倉 吉 氏)</p> <p>※ 17年度ワカメ養殖等に大きな影響を与えた低水温の問題について、そのメカニズムやその時の対応、管理対策等について講演があった。</p> <p>2 講演 「今年度の低酸素状況について」 (水産技術センター 専門研究員 高 木 稔 氏)</p> <p>※ 18年度陸前高田市小友地区で発生した低酸素状況についての調査結果や対策等についての講演があった。</p> <p>3 各グループの試験研究、活動状況報告</p> <p>(1) 「ヒジキ養殖試験」(越喜来漁協青壮年部)</p> <p>(2) 「ムール貝養殖試験」(綾里養殖研究会)</p> <p>(3) 「アサリ増殖場について」(大船渡浅海養殖研究会)</p> <p>(4) 「エゾイシカゲガイ養殖試験」(広田湾漁協青壮年部米崎支部)</p> <p>(5) 「マガキ天然採苗試験」(広田湾漁協青壮年部小友支部)</p> <p>(6) 「ワカメ無機質採苗試験」(広田湾漁協青壮年部気仙支部)</p> <p>(7) 活動状況 (吉浜漁協青年部、綾里漁協青壮年部)</p>		
			

課 題 名	漁業青壮年交流活動		
実 施 主 体	JF岩手漁青連	構 成 員 数 (うち参加者数)	26組織 (13組織)
総 事 業 費	478,257 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	漁業青壮年・女性が一堂に会し、研修を通して活力ある漁村づくりのきっかけにするとともに、相互の情報交換を積極的に行い、漁業青壮年・女性の資質向上を図る。		
期日、場所 参加者等	1 開催日 平成18年6月17日 2 開催場所 久慈市ブランドール 3 出席者 漁協青壮年部員 50人 漁協女性部員 19人 水産業普及指導員 5人 県、市町村他 10人 合計84人		
結 果	1 基調講演 「食育における漁青連の役割」 講師 (有)ウィルビー 代表取締役 志村 尚一 氏 要旨 教育は言葉で教えること以外に、経験を通して教えることのほうが身につく。人それぞれを生かす努力が必要。人は命をいただいて生きている。身近なあたり前と思う価値に気づいてアイディアを出し合って、理解し合い、やれるところを分担して共に進んでいくことが必要である。  2 ディスカッション 「漁青連ができる食育について」 要旨 各地で調理体験、磯観察、定置網体験、うに漁獲・加工体験、新巻作り体験、わかめ養殖・加工・販売体験などを実施している。岩手の食文化と漁業を守るため、積極的に体験学習を支援していくこととする。 課題・問題点 食育基本法が2005年7月に施行されたが、まだ「食育」とは何か浸透されていない。そこで、漁青連が何をすべきか課題をもって、実施できるようなプログラムを設定したが、今後の各青年部員がどう意識をもって、活動していけるかが課題である。 次年度継続の有無 継続した研修によって、岩手の漁村を活性化させる必要がある。		

③ 漁業士活動

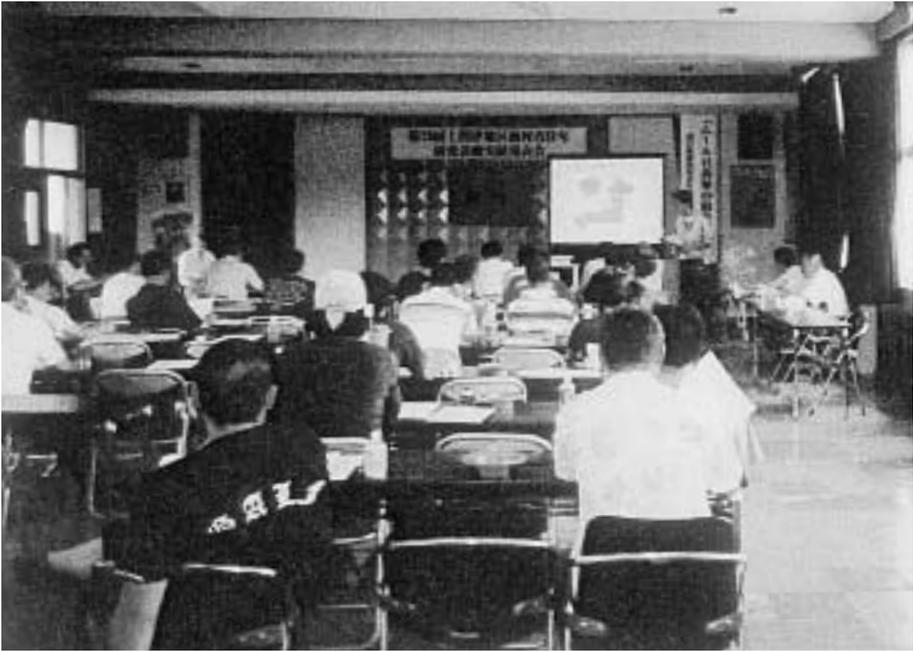
課 題 名	宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部との交流会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会大船渡支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	31名 (18名)
総 事 業 費	105,000 円	うち基金助成額	80,000 円
事業の目的	県境を接する宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部が互いの漁業について情報交換し交流を深める。		
活動の内容	宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部との交流会の開催 1 開催日時 平成18年8月3日(木) 14:30~17:15 2 開催場所 陸前高田市 「キャピタルホテル1000」 3 参加者 47名(漁業士35名、市町村3名、県9名)		
結 果	<p>1 講 演</p> <p>「水産物の経営戦略について－カキを中心にして」と題して、岩手県水産技術センター企画指導部の宮田主任専門研究員が講演した。</p> <p>講演要旨</p> <p>○ブランド管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内のカキのシェア(生産額)は、広島が42%でいちばん多く、岩手県は10%である。 ・ 瀬戸内は非常に大きな会社経営、宮城・岩手は漁家経営である。 ・ カキの輸入動向を見ると、産地表示の義務化が2000年に行われ、2002年には偽装問題が表面化し輸入量が一挙に減少している。こういう時こそブランド管理をしっかりして輸入ものを防ぐ。そうして行かないと価格が下がり、消費者を裏切ることになる。 <p>○三陸の誤った供給体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入量の減少、広島の減少によりむき身は不足傾向(生鮮のみならず、加工原料も不足) ・ 不足分を補うために漁場許容量を無視した生産、漁場への負荷 ・ 不足にかかわらず市場を拡大、つまり10~3月以外のカキを増産している。 ・ 市場を広げた結果、市場内に不足が生じ、輸入増を導く要素となる ・ 生産量の維持、最大収入について再検討が必要である。 ・ 三陸の増産→競争→新しい市場開拓→自らの首を絞めている(この認識が必要) <p>○三陸産地の対応戦術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手は大型カキ至上主義であり、コストに見合った、業態に合わせた品揃え及びサイズに応じた販路開拓が必要。 ・ 三陸産の強みは年内出荷である。周年化は10月の初値を崩壊させ、三陸の強みを崩壊させる。年明け以降は瀬戸内が強い。特に生食主流の岡山は脅威である。マガキは10~3月出荷の徹底、イワガキは5~8月出荷の徹底について三陸全体の話し合いが必要である。 <p>2 意見交換</p> <p>上記講演を基に出席漁業士による意見交換を行った。</p>		

課 題 名	三県女性漁業士交流会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構 成 員 数 (うち参加者数)	105名 (11名)
総 事 業 費	35,490 円	うち基金助成額	35,000 円
事業の目的	青森、岩手、宮城等の女性漁業士が一堂に会し、相互の活動状況や課題等について意見交換を行なうことにより、今後の女性漁業士活動の向上に資する。		
活動の内容	1 開催日時 平成18年9月1日(金)14:00~翌2日(土)11:30 2 開催場所 盛岡市つなぎ 清温荘 3 参加者数 32人(岩手、青森、宮城、茨城、千葉県の女性漁業士及び県担当者) 4 内 容 (1) 講演「漁業・漁村における女性の役割」 (財)漁港漁場漁村研究所 主席主任研究員 関 いずみ 氏 (2) 情報交換 ① 各県女性漁業士の活動状況 ② 意見交換 (3) 視察 「松ぼっくり」(酪農家のアイスクリーム作り)		
結 果	1 講演要旨 ○ 漁村の女性は、環境、生活、産業など地域を支える要素のすべてに関わっているが、これらの活動についてきちんと評価されていない面がある。 ○ その要因として、女性活動に対する支援体制や女性の意見が地域に反映される体制になっていないことがあげられる。 ○ 女性側もこの点についてアピールする努力が必要。例えば、色々な活動をボランティアで行っているが、ボランティアでは評価されにくい。非営利で経費分を負担していただくことで評価も受ければ、長続きもする。 2 情報交換(主な意見) ① 流通について ・ 農家(米)と異なり、漁業生産者には最低保障もない。 ・ 自分たちで獲ったものに自分たちで値を付けられるような力がほしい。 ② 女性の登用について ・ 正組合員については、1世帯1組合員と言うルールがあったり、出資金の問題があったりで、なかなか女性が正組合員になるのが困難という現実がある。 ・ 環境、直販等、女性の役割は今後益々大きくなるが、浜での女性に対する役割評価は依然として低い。組合員資格等も踏まえ、組合経営への関与等も可能なような体制づくりが必要である。 ③ 女性漁業士について ・ 女性漁業士の数が少なく県内に分散している、漁業種類が異なり共通項が見えにくい等の理由から、まとまった活動が困難であり、女性漁業士の意義を見えにくくしている。 ・ 漁業士として何をすべきかというきちんとした方向性が示されていないため、自分たちも何をして良いかわからないし、漁協の職員や組合員にもその意義や役割が理		

<p>結 果</p>	<p>解されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業士というのは、勉強や経験を積んで、地域の漁業者に学んだ内容を伝えるという役割を担っている。女性だから、男性だからと言う区別はあまり必要ではなく、ことさらに「女性」という冠をつける意味はないのではないか。 ・ 千葉県では、女性漁業士を「漁村地域のリーダーとして自ら考え行動する人を県が認定し、漁村の活性化につながる活動や、後継者育成に取り組む人への称号」と位置づけている。 ・ 女性漁業士という制度を作ったのだから、行政はもっとこれを活用してほしい。 ・ 漁協の中でも漁業士という立場が明確になっていないため、役割がわからない。 ・ 茨城県漁業士会では、現在の水産業が抱える問題や対策案に関する意見を漁業士会としてまとめ、国や県、系統団体へ要望書的な形で提出する方向で検討している。 ・ 油代の負担が非常に重くなってきている。操業すればする程赤字になるような状況では、漁業が継続できるかどうか不安である。
------------	--

④ 地区活動実績発表大会

課 題 名	第29回気仙地区漁村青壮年助成研究グループ活動実績発表大会		
実施主体	JF岩手漁青連気仙支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(100名)
総事業費	102,680 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	漁村青壮年女性活動の実績や研究成果の発表等を通じて意見交換を行い、活動意欲の高揚と活動成果を広く普及させる。		
期日、場所 参加者等	1 開催日時 平成18年7月18日 14:00~17:00 2 開催場所 大船渡地区合同庁舎4階大会議室 3 参加者 約100名(漁青連支部会員、女性部、市県他)		
結 果	1 実績発表(研究会及び女性部の地区代表による発表) (1) 「未利用海藻クロモの有効利用について」 (広田湾漁協青壮年部米崎支部 佐々木 学) (2) 「私たちの女性部活動-子供たちと一緒に学ぶ魚食普及」 (大船渡市漁協大船渡地区女性部 村上 マツノ) 2 特別発表 (1) 「水産物の有効利用第9報報告」 (広田水産高校3年水産技術科(吉田、大近)) (2) 「すごいな広田湾」 (広田水産高校3年水産技術科(梅津、石川、佐々木)) 3 話題提供 「ナマコに関する研修視察報告」 (吉浜漁協青年部 野田 邦 広)		
			

課 題 名	釜石地区活動実績発表会		
実 施 主 体	JF岩手漁青連上閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	94名 (30名)
総 事 業 費	58,939 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	漁業青壮年の活動について発表並びに研究討議を行い、知識と情報の相互交換により活動意欲の高揚を図るとともに、活動成果を広く普及し、もって沿岸漁業等の振興に寄与する。		
期日、場所 参加者等	期日：平成18年8月4日 場所：釜石東部漁協 本所 2階会議室 参集：管内漁協青年女性部、県漁連、漁協、市町、県 合計40名 釜石東部漁協青年部より実績発表（1題） 水産技術センターの試験研究成果発表による研修会（3題）		
結 果	<ol style="list-style-type: none"> 活動実績発表として 釜石東部漁協 青年部 三浦憲男青年部長より「ムール貝養殖の取り組み」の発表が行われた。 この取り組みは平成16年度から実施し、出荷サイズまでの成長段階と養殖管理技術を確立したもの。県大会への推薦課題とした。 研修会として、水技セ 出前フォーラムを併催（3課題）。 (カキ養殖：小野寺主任専研、ホヤ活輸送：内記技師、アイナメ活魚化試験：宮田主任専研) 		
			

課 題 名	第24回下閉伊地区漁村青壮年活動実績発表会		
実 施 主 体	JF岩手漁青連下閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(51名)
総 事 業 費	344,335 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	活動状況報告、研究発表、女性との意見交換等により、地区内の研究グループおよび青年部等の活動意欲を高める。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成18年6月23日 場 所：宮古市 「ホテル近江屋」 参加者：船越湾漁協女性部、織笠漁協女性部、山田湾漁協女性部、宮古漁協女性部、 田野畑村漁協女性部、重茂漁協青年部、宮古漁協青壮年部、田老町漁協青年部、 田野畑村漁協青年部、山田町産業振興課、宮古市水産課、宮古栽培漁業センター、 岩手県漁連、宮古水産高校、水産技術センター、宮古水産部、		
結 果	1 船越湾漁協女性部 活動実績発表 「長びく不況をのりきるために」－私たちができること－ 2 宮古水産高校 食品管理コース 活動発表 深海の贈り物 ホラアナゴの有効活用Ⅱ（オキハモ昆布巻缶詰） 3 各研究会、青年部活動実績報告 4 事例報告 「宮古・下閉伊モノづくりネットワークの取り組み」《花見カキ》 5 研 修 (1) 養殖ワカメの収穫・加工作業の事例 水産技術センター 企画指導部 大野主任専門研究員 (2) エチゼンクラゲの生態と定置網の漁具改良手法について 水産技術センター 漁業資源部 後藤主任専門研究員		

課 題 名	平成18年度九戸地区漁村青壮年活動実績発表会		
実 施 主 体	JF岩手漁青連九戸支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(105名)
総 事 業 費	102,763 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	九戸地区の漁村青壮年が一堂に会し、活力ある漁村づくりに向け組織活動の充実と生活改善のための情報の交換を積極的に推進し、会員資質の向上を図る。		
期日、場所 参加者等	1 期 日；平成18年7月6日（14時から17時） 2 場 所；久慈市（ブランドール） 3 参加者；105名（男60名、女45名、事務局及び来賓等を含む）		
結 果	<p>(活動実績発表)</p> <p>1 高校生の活動発表</p> <p>ア 「私と海」 (県立久慈東高等学校 海洋科学系列科)</p> <p>イ 「ウニ殻産業廃棄物を利用したものづくり・パート2」 (県立種市高等学校 海洋開発科)</p> <p>2 女性部の活動発表</p> <p>ア 「食育と女性部活動」 (久慈市漁協女性部)</p> <p>3 研究グループの活動発表</p> <p>ア 「ナマコ増養殖試験」 (宿戸漁業研究会)</p> <p>イ 「溶岩ブロック昆布養殖試験」 (二子漁業研究会)</p> <p>ウ 「ホタテ養殖業の生産増大」 (野田漁友会)</p> <p>エ 「餌料こんぶ養殖試験」 (小子内浜漁業研究会)</p> <p>※ 野田漁友会の発表が地区の代表に選考された。</p> <p>(研修会)</p> <p>ア 講演；「岩手県漁業担い手育成ビジョン」について 講師；岩手県水産振興課 主任主査 山 口 浩 史</p>		
			

イ 漁業女性活動

課 題 名	魚食教育と地産地消を目的とした「魚食普及」活動		
実 施 主 体	大船渡市漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	980名 (30名)
総 事 業 費	268,762 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	サケ、カキ、ホタテなどの魚介類を身近な食材として見直し、子供たちに魚の良さを知ってもらふこと、また父兄を参加させ子供たちと共に魚介類に親しむことにより「魚食普及」に繋げてゆくこと、さらに海の魚介類と内陸部の米、野菜を使い地産地消を奨励することを目的とする。		
期日、場所 参加者等	<p>【蛸ノ浦小学校】</p> <p>1 開催日時 平成18年11月5日</p> <p>2 開催場所 蛸ノ浦小学校（大船渡市）</p> <p>3 参加者 児童33名（5～6年）、教職員、漁協女性部（15名）</p> <p>【田原小学校】</p> <p>1 開催日時 平成18年11月22日</p> <p>2 開催場所 田原小学校（奥州市）</p> <p>3 参加者 153名（児童103名、父母20名、教職員12名、女性部12名、漁協等6名）</p>		
結 果	<p>【蛸ノ浦小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性部がサケの捌き方、すり身団子の作り方等について説明。 ・ 児童が女性部と一緒にサケチャンチャ焼きとサケすり身汁づくりを行った。 ・ 参加者全員で料理を試食しながら懇談した。 <p>【田原小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 18年度は児童に加え父母にも参加を要請し親子料理教室を行った。 ・ 漁協職員がホタテ養殖連を用い、ホタテ養殖について説明した。 ・ 女性部の指導の元、児童が父母と一緒にサケの三枚おろし、イクラづくり、ホタテ雑物除去体験の後、ホタテ焼き、サケちゃんちゃ焼き、サケすり身汁、カキフライ、イクラ丼づくりを行った。 ・ 参加全員で料理を試食しながら懇談した。 		
			

課 題 名	地域内の青少年交流と魚食普及		
実 施 主 体	大槌町漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	479名 (10名)
総 事 業 費	52,907 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	大槌町内の小中高生を対象に料理教室を開催し、大槌町産の水産物の料理方法を教えることにより、地元での魚食普及を促進する。		
期日、場所 参加者等	期日：平成18年12月15日 場所：吉里吉里中学校 参集：吉里吉里中学校2年生37名、教員2名 食材：サケ、ワカメ		
結 果	<ol style="list-style-type: none"> 1 料理メニュー サケのあら汁、サケのチーズ巻きフライ、サケハンバーグ、ほうれん草とワカメのサラダ 2 調理 生徒を8班に分け、女性部が各班の講師となって調理を指導した。 家庭で料理の手伝いを実施している生徒は少なく、生徒達が集団で実施することで、初めての包丁さばきや味付けなど、互いに興味を持って取り組んだ。 3 試食会 調理後の試食会では各班の出来ばえを発表し、自分で作った料理の味に感激していた。これを機会に、1品でも家庭で作ってみたいという生徒が多数あった。 4 その他 料理教室の開催は生徒、教職員からも好評で、漁協女性部に対しては次年度以降も引き続き実施するよう要望されている。 サケは、調理時間の関係から、3枚おろしなどの下ごしらえをあらかじめ女性部が実施しており、丸の魚の裁き方からの指導も今後検討する。 		
			

課 題 名	農山女性部との交流（石けん普及活動）		
実 施 主 体	釜石東部漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	315名 (21名)
総 事 業 費	41,735 円	うち基金助成額	40,000 円
事業の目的	合成洗剤追放運動の拡大を図るため、河川流域の上流部となる農山村地域への石けん利用を促進する。		
期日、場所 参加者等	期日：平成19年2月4日 場所：釜石市甲子町「洞泉公民館」 参集：釜石東部漁協女性部21名、甲子産直グループ7名 合計28名		
結 果	<p>1 訪問先 甲子産直グループ「フレッシュあぐり」</p> <p>2 普及啓発 ビデオ上映「ほんとに安心？合成洗剤」を上映</p> <p>3 見本品展示等 わかしお石けんの見本品と、利用サンプル、パンフレットを提供</p> <p>4 成果等 甲子川沿いに居住することから、「河川流域から海を守ろう」という意識とともに確認できた。 わかしお石けんの入手が漁協の購買に限定されていることから、普及を促進するには産直施設でも販売できるよう検討する。 若い世代への利用普及が重要であることから今後は保育園、学校等でのPR方法も検討していく。</p>		

課 題 名	缶詰製品開発試験																
実 施 主 体	田野畑村漁協浜岩泉女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	69名 (69名)														
総 事 業 費	62,295 円	うち基金助成額	60,000 円														
事業の目的	地元の特産品開発として村内で生産された食材を用いた加工品開発を行い、開発した商品に栄養分析表を掲示して販売促進を図る。																
期日、場所 参加者等	期 日：平成18年4月～平成19年3月 場 所：田野畑村 協力機関：田野畑村漁協、田野畑村農林水産課（現：産業振興課）、 宮古農業改良普及センター、ホテル羅賀荘、水産技術センター、宮古水産部																
結 果	<p>1 地産食品を用いた缶詰開発試験（山海煮の開発） サケの中骨、天然こんぶ、大豆、人参、こんにゃくを用いた缶詰を開発。 品質表示の一環として、開発した缶詰の栄養成分をラベルに印刷することにし、岩手県医薬品・衛生検査センターに成分分析を依頼した。</p> <p>2 販売試験 平成18年8月から平成19年3月にかけて、村内のホテルや産直等で販売し、一般消費者の反応を調査した。 購入者からの感想は概ね好評であり、村内のホテルでは平成19年度から売店で取り扱いすることになった。</p>																
	<table border="1"> <tr> <td>名 称</td> <td>山海五目味付</td> </tr> <tr> <td>原材料名</td> <td>しろさけ中骨・こんぶ(天然)・大豆(遺伝子組換えでない)・人参・こんにゃく・醤油(小麦を含む)・みりん</td> </tr> <tr> <td>固 形 量</td> <td>150 g</td> </tr> <tr> <td>内容総量</td> <td>200 g</td> </tr> <tr> <td>賞味期限</td> <td>缶底に記載</td> </tr> <tr> <td>製 造 者</td> <td>田野畑村漁業協同組合 (浜岩泉浦女性部) 岩手県田野畑村島越104-2 電話番号 0194 (33) 2311</td> </tr> </table>			名 称	山海五目味付	原材料名	しろさけ中骨・こんぶ(天然)・大豆(遺伝子組換えでない)・人参・こんにゃく・醤油(小麦を含む)・みりん	固 形 量	150 g	内容総量	200 g	賞味期限	缶底に記載	製 造 者	田野畑村漁業協同組合 (浜岩泉浦女性部) 岩手県田野畑村島越104-2 電話番号 0194 (33) 2311		
	名 称	山海五目味付															
原材料名	しろさけ中骨・こんぶ(天然)・大豆(遺伝子組換えでない)・人参・こんにゃく・醤油(小麦を含む)・みりん																
固 形 量	150 g																
内容総量	200 g																
賞味期限	缶底に記載																
製 造 者	田野畑村漁業協同組合 (浜岩泉浦女性部) 岩手県田野畑村島越104-2 電話番号 0194 (33) 2311																
<table border="1"> <tr> <td>栄養成分表示</td> <td>100 g 当たり</td> </tr> <tr> <td>熱量</td> <td>94.5 Kcal</td> </tr> <tr> <td>たんぱく質</td> <td>10.5 g</td> </tr> <tr> <td>脂質</td> <td>3.4 g</td> </tr> <tr> <td>炭水化物</td> <td>5.6 g</td> </tr> <tr> <td>ナトリウム</td> <td>611.7 mg</td> </tr> <tr> <td>カルシウム</td> <td>890.5 mg</td> </tr> </table>			栄養成分表示	100 g 当たり	熱量	94.5 Kcal	たんぱく質	10.5 g	脂質	3.4 g	炭水化物	5.6 g	ナトリウム	611.7 mg	カルシウム	890.5 mg	表示ラベル
栄養成分表示	100 g 当たり																
熱量	94.5 Kcal																
たんぱく質	10.5 g																
脂質	3.4 g																
炭水化物	5.6 g																
ナトリウム	611.7 mg																
カルシウム	890.5 mg																

(4) 異業種間交流事業

課 題 名	農林漁業者との交流会（釜石森林組合青年部との植樹活動）		
実 施 主 体	JF岩手漁青連 上閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	94名 (6人)
総 事 業 費	140,000 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	農林業者と漁業者で自然を守ることの大切さや海の環境を守ることを目的として、植林活動を展開し交流を図る。		
期日、場所 参加者等	<p>以下の地区における植樹活動を地元住民、釜石地方森林組合員らとともに実施した。</p> <p>1 大槌町小槌 新山高原 実施日：平成18年6月18日 内 容：大槌町植樹祭への参加、苗木80本（単価625円/本）提供</p> <p>2 釜石市唐丹町 山谷地区 実施日：平成18年10月21日 内 容：唐丹地区流域環境保全の会、JF岩手漁青連上閉伊支部「山川海」環境保全推進協議会との共催による植樹活動。</p>		
結 果	<p>1 大槌町小槌 新山高原 町民ら約1000名のボランティアとともに約500本の植樹（うち80本を提供）。 参加者：大槌町漁協青年部 笹谷 学ほか3名</p> <p>2 釜石市唐丹町 山谷地区 唐丹地区流域環境保全の会（会長：唐丹町漁協 上村組合長）ら約100名とともに植樹活動を実施。併せて周辺の草刈り作業を実施。 参加者：唐丹町漁協青年部 佐々木 武（青年漁業士）ほか1名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

課 題 名	地場産品の消費拡大及び魚食普及を図る意見交換・交流会		
実 施 主 体	JF岩手漁青連九戸支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(33名)
総 事 業 費	64,400 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	九戸地区漁村青年と街場の消費地青年とが、相互の問題点・地場産品のPR等について、積極的に意見交換・交流を深めることにより、今後の魚食普及並び消費拡大を図ることを目的とする。		
期日、場所 参加者等	1 期 日；平成18年 8 月23日（17時から19時） 2 場 所；久慈市漁協二子出張所、及び加工施設 3 参加者；33名 久慈商工会議所青年部（6名）、久慈青年会議所会員（3名） JF漁青連九戸支部会員（15名）、久慈市漁協、事務局等		
結 果	(意見交換) 1 今後の魚食普及・消費拡大を図るため、久慈市の街場の青年とJF岩手漁青連九戸支部会員とが、相互の問題点・地場産品のPR等について意見交換した。 意見交換のテーマ； ア 地場産品の生産状況並びに消費動向について イ 地場産品PR活動について ウ 相互の青年活動の問題点について 久慈水産部から「久慈地域の水産資源を活用した地域活性化の推進に対する取り組み」について、久慈市漁協から「久慈魚市場の取り扱い状況」等について、県漁連久慈共販所から「共販水産物の取り扱い状況」について話題提供し、意見を交換した。 (地場産品の試食及び交流) 2 JF漁青連九戸支部会員が他業種の参加者に、ウニとホヤの殻むき方法を解説し、養殖アワビ、サンマやイワシ等の鮮魚、及び地場水産物の加工品などを紹介しながら試食した。		

(5) 特認事業

ア 少年海づくり大会事業

課 題 名	大船渡地区少年海づくり大会		
実 施 主 体	大船渡地区漁業担い手育成推進協議会	構 成 員 数 (うち参加者数)	(132名)
総 事 業 費	101,067 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	明日の漁業の担い手と漁業の理解者となる次代を担う少年の育成を図るため、管内海づくり少年団3団体の参加による連携交流を図る。		
期日、場所 参加者等	<p>1 開催日時 平成18年8月1日(火) 9:30~14:30</p> <p>2 開催場所 北里大学水産学部</p> <p>3 参加者 132名(少年団員88名、学校関係者12名、漁業関係者14名、北里大学関係者4名、市町村関係者6名、県関係者8名)</p>		
結 果	<p>1 施設見学 北里大学教職員の案内で、キャンパス内の研究室、水槽施設等の見学を行った。</p> <p>2 水産実験 磯の生物の展示観察、各種標本・化石等の観察とスケッチを大学教官の指導により実施。</p> <p>3 模擬講義 「海の不思議、川のご不思議」と題して、朝日田助教授による講義が行われた。</p> <p>4 クイズ大会 水産に関するクイズの出題と解説を振興局水産部職員が行い、クイズ上位正解者10名に景品を贈呈した。</p>		
			

課 題 名	宮古地区少年海づくり大会		
実 施 主 体	宮古地区漁業担い手育成推進協議会	構 成 員 数 (うち参加者数)	(76名)
総 事 業 費	140,703 円	うち基金助成額	140,703 円
事業の目的	宮古地区の6海づくり少年団を参集し海や水産業について学習・理解することにより、地域の自然を護り大切に地域活動に積極的に参加する、心豊かな青少年の育成を図る。		
期日、場所 参加者等	期日：平成18年8月6日 場所：宮古市 浄土ヶ浜および県立水産科学館		
結 果	<p>1 磯の観察会 浄土ヶ浜地先の磯場で生物採集を行い、その後に、少年団後とに講師の指導により生物の同定を行った。</p> <p>2 体験学習 水産科学館にて、ワカメの芯抜き体験および館内の見学を実施した。</p>		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>磯の観察会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>体験学習</p> </div> </div>		

課 題 名	久慈地区少年海づくり大会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会久慈支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(198名)
総 事 業 費	258,466 円	うち基金助成額	258,466 円
事業の目的	海づくり少年団と森林愛護少年団の参加による連携交流並びに作り育てる漁業の推進を図る。		
期日、場所 参加者等	日 時；平成18年6月4日(日) 9時30分～14時30分 場 所；普代社会体育館、太田名部漁港、黒埼灯台周辺 参集团体；管内の海づくり少年団(6団体)と森林愛護少年団(1団体)		
結 果	<p>参加者(合計 198名)</p> <p>少年団</p> <p>堀内海づくり少年団 (児童；14名、引率者；4名)</p> <p>野田村海づくり少年団 (児童；17名、引率者；2名)</p> <p>久喜海づくり少年団 (児童；8名、引率者；4名)</p> <p>長内海づくり少年団 (児童；25名、引率者；2名)</p> <p>中野海づくり少年団 (児童；25名、引率者；3名)</p> <p>宿戸海づくり少年団 (児童；26名、引率者；2名)</p> <p>日野沢森林愛護少年団 (児童；6名、引率者；2名)</p> <p>(小 計 123名 19名 42名)</p> <p>来 賓 普代村村長、漁協組合長 (4名)</p> <p>主 催 者 (代表；漁業士会久慈支部会長) (1名)</p> <p>スタッフ (県、市町村、漁協職員等、及び漁業士) (51名)</p>		
	<p>内 容</p> <p>1 開 会 式</p> <p>開会宣言 (堀内海づくり少年団代表；澤田奈津季)</p> <p>主催者挨拶 (岩手県漁業士会久慈支部会長；吹切 信夫)</p> <p>来賓挨拶 (普代村村長； 深渡 宏)</p> <p>2 交 流 会</p> <p>北リアス食卓応援隊タベルンジャーの紹介</p> <p>久慈地域の水産物 (タベルンジャーキャラクター) 関連クイズ大会</p> <p>3 体 験 学 習</p> <p>(1) 塩蔵ワカメ芯抜き体験 (普代社会体育館、漁業士等の指導により体験)</p> <p>(2) すきコンブ加工場見学 (太田名部の漁家、すきコンブ製造工程の学習)</p> <p>(3) 漁業取締船の見学 (太田名部漁港、取締船の見学と役割の学習)</p> <p>(4) 黒埼灯台の見学 (灯台の役割、歴史等の説明)</p> <p>4 閉 会 式</p> <p>講 評 (普代村漁協組合長 ；鎌倉 賢一)</p> <p>閉会宣言 (宿戸海づくり少年団代表；苧坪 卓希)</p>		



課 題 名	久慈地域少年海づくり大会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会久慈支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	27名 (名)
総 事 業 費	389,500 円	うち基金助成額	300,000 円
事業の目的	長内海づくり少年団の活動の円滑な推進を図り、その活動を通じて、次世代を担う漁業後継者の育成を図る。		
期日、場所 参加者等			
結 果	<p>平成18年度に結成した長内海づくり少年団の、団旗と制服（30着）を作成した。</p> <p>団旗一式の内容 団旗、竿（3 mアルミ製）、三方剣、三脚、ハードケース</p> <p>制服（1着）の内容 帽子（団名入り）、スカーフ（団名入り）、シャツ、半ズボン</p>		
	 		

イ 漁業者等資質向上研修

課 題 名	異常冷水海洋シンポジウム		
実 施 主 体	岩手県漁業士会（後援）	構 成 員 数 （うち参加者数）	105名 （18名）
総 事 業 費	150,000 円	うち基金助成額	75,000 円
事業の目的	本県水産生産物に大きな影響を及ぼした平成18年春季の異常冷水接岸にかかる現状認識と今後の対策等について知識を得るため、県水産技術センター等が開催する当シンポジウムを漁業士会研修会として位置づけ後援する。		
期日、場所 参加者等	<p>1 開催日時 平成19年1月11日（木）10：00～17：00</p> <p>2 開催場所 宮古市 浄土ヶ浜パークホテル</p> <p>3 参加者数 148人（うち漁業士18人）</p> <p>4 内 容 ①東北海区に見られる春季異常冷水現象 ②東北海区における海況変動に対する水産資源の応答 ③三陸沿岸における2006年春季の異常冷水とその影響 ④異常冷水接岸による沿岸水産資源への影響</p>		
結 果	<p>午前中は、東北海区における異常冷水接岸と沿岸親潮、及び親潮南下と気象との関係に関する4課題が示された。平井（水研セ東北水研）から、東北海区における春季の異常冷水現象を過去に振り返ってレビューした結果が紹介され、継続的な海洋環境のモニタリングの重要性が示された。河野（北海道東海大）から、沿岸親潮がオホーツク海の沿岸親潮の伝播が風の変動と対応しており、東北海区への沿岸親潮の南下は津軽暖流の動向も併せて考える必要性が示された。伊藤（岩手水技セ）から、海洋観測結果に基づき、岩手県におけるこれまでの異常冷水現象をレビューした結果が示され、2006年が過去の異常冷水接岸時に比べて極端な低塩分水が観測されたほか、周年にわたって低塩分傾向が継続したという特徴が示された。野中（地球フロンティア）から、親潮の南下が冬のアリューシャン低気圧の発達により引き起こされ、これが親潮の短期的な動向予測に有効と考えられることが示された。</p> <p>午後は、海況変動と資源変動に関する3課題、2006年に生じた異常冷水による資源・水産業への影響に関する4課題、そして沿岸域における特定資源に対する影響に関する4課題が紹介された。田所（水研セ東北水研）から、動物プランクトンの変動はリン酸塩濃度との関連が強く、潮汐強度の18.6年取期と連動している可能性が示された。児玉（気仙沼水試）から、沿岸で利用される資源は定期的に入れ替わる暖水期と冷水期に対応して魚種交代が生じることから、漁業生産上、戦略的な対応が必要との認識が示された。為石（JAFIC）から、異常冷水の生じる年代には三陸沖に暖水塊が発達することが多く、一部の浮魚類ではこの縁辺で好漁場が形成されることが示された。</p> <p>菊谷（青森水総セ）から、2006年の異常冷水は青森では1984年と異なり短期的な現象にとどまったため、大きな影響を受けなかったことが紹介された。藤浪（水研セ宮古栽培セ）から、2006年の異常冷水はニシン種苗生産現場において、大幅な水温調整時に気泡が発生することによる種苗の大量斃死という影響が示された。内田（山田町）から、2006年の異常冷水はアワビ資源の長期的な資源減少といった負の影響だけでなく、餌料海藻の確保にとって良</p>		

<p>結果及び 考 察</p>	<p>い影響を及ぼすという両面の可能性が示された。小国（岩手県漁業士会）から、2006年の異常冷水は、ワカメ養殖への影響や、コンブの繁茂によるウニ漁業への影響が大きかったことが示され、現場生産者にとって情報提供、予測、具体的な影響の分析の重要性が示された。</p> <p>加賀（岩手水技セ）から、異常冷水の接岸と貝毒プランクトンの発生量には直接的な関係は見られなかったことが示された。野呂（岩手水技セ）から、異常冷水はアワビ資源にとって稚貝の生き残りに対する悪影響だけでなく、餌料海藻の増加による成長促進効果もあることが示された。永島（宮城水研セ）から、イカナゴ資源について、仙台湾では異常冷水よりも、暖水の流入による影響が大きいことが示された。伊藤（青森水総セ）から、ヤリイカ資源において冷水の再生産に与える影響は大きいと考えられるが、異常冷水と資源変動との直接的な関係は明らかとなっていないことが示された。</p> <p>本シンポジウムでは、三陸海域への春季異常冷水接岸が沿岸親潮水の流入によって引き起こされ、2006年の現象も基本的には従来のそれと同様であったことが整理できた。反面、2006年は従来の異常冷水接岸に比べて短期的かつ局所的であったが、低塩分化が長く続いたといった特徴も見いだされた。これに対し、東北海区における異常冷水の定義や具体的な生物生産に与える沿岸親潮水特有の影響について、親潮と沿岸親潮の挙動、そしてそれらの影響を区分して考察する必要性が指摘された。一方、異常冷水と資源に関する話題においては、アワビ資源を除いて直接的な影響を抽出することが難しく、短期的に生じる海洋現象に対する影響を明らかにするためには、特に沿岸域における長期的で綿密なモニタリングの重要性が指摘された。</p>
---------------------	---

課 題 名	第50回岩手県漁協女性部大会（大会講演）		
実 施 主 体	岩手県漁協女性部連絡協議会	構 成 員 数 （うち参加者数）	9,027名 （約450名）
総 事 業 費	100,000 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	岩手県漁協女性連主催の大会において、県下の漁協女性部員を招集し、講師招聘による集合研修を実施し部員の資質向上を目指す。		
期日、場所 参加者等	開催日時：平成18年8月23日（水） 午後3時～午後4時30分 開催場所：花巻市 花巻温泉「ホテル紅葉館」		
結 果	<p>第50回岩手県漁協女性部大会講演</p> <p>演題 「吹かせよう新しい風 今こそ漁協女性部がキラめく時」</p> <p>講師 (有)ウィルビー代表取締役 劇団「ZENT-YOYO-CLUB」 代表 志 村 尚 一 氏</p> <p>・講演では、「何事も理想を追い求めることが大事。第一次産業を支えている女性部から小さなきっかけを発進していくことで漁村の活性化が図れる。漁協女性部という組織の必要性を改めて考え、仲間と共に進んでいくことが必要である。」等、ユニークな語り口調で女性部員をひき付け、漁村活性化に向けて女性部員の意識を盛り立てるような講演であった。今後の女性部活動の意欲向上に役立てたと思われる。</p>		
	 		

4 地区協議会の運営

当基金の円滑な運営を図るため、地区協議会を下記のとおり開催した。

(1) 大船渡地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協議内容	備考
3月29日	大船渡地区合同庁舎	17名 (9名出席)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会会長、副会長の選出 ・ 平成18年度担い手育成関連事業実績及び平成19年度計画について ・ 平成18年度海づくり少年団交流大会実施結果及び平成19年度計画について ・ 普及員指導力強化研修報告（中国大連市視察報告） 	

(2) 釜石地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協議内容	備考
9月6日	釜石地区合同庁舎	24名中 19名出席	<ol style="list-style-type: none"> 1 県北沿岸振興施策について 2 岩手県漁業担い手育成ビジョンについて 3 平成18年度漁業担い手基金事業実施計画について 	

(3) 宮古地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協議内容	備考
3月19日	宮古地区合同庁舎	19名 (出席15名)	<ol style="list-style-type: none"> 1 会長・副会長の選出 2 H18事業実績について 3 H19事業計画案について 	

(4) 久慈地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協議内容	備考
3月23日	久慈地区合同庁舎	18名 (14名出席)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年度久慈地区漁業担い手育成事業（基金、県）実績について（報告） ・ 平成19年度久慈地区漁業担い手育成事業実施計画について 	

5 事業実施状況の推移

(1) 青少年漁業体験・交流事業

平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	150千円	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	150千円	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	150千円	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	150千円
大船渡地区 3 少年団	250千円	大船渡地区 3 少年団	200千円	大船渡地区 3 少年団	200千円	大船渡地区 3 少年団	250千円
釜石地区 5 少年団	200千円	釜石地区 4 少年団	300千円	釜石地区 4 少年団	300千円	釜石地区 5 少年団	300千円
宮古地区 2 少年団+田野畑小・中	200千円	宮古地区 4 少年団+田野畑小・中	250千円	宮古地区 4 少年団+田野畑小・中	250千円	宮古地区 4 少年団+田野畑小・中	300千円
久慈地区 4 少年団	150千円	久慈地区 5 少年団	150千円	久慈地区 5 少年団	150千円	久慈地区 6 少年団	150千円
一日体験入学 3 高校		一日体験入学 3 高校		一日体験入学 3 高校		一日体験入学 3 高校	
(高校クラブ等)		(高校クラブ等)		(高校クラブ等)		(高校クラブ等)	
加工品開発・あわび生態 (広田水産高)	50千円	加工品開発・あわび生態 (広田水産高)	50千円	加工品開発・漁場環境 (広田水産高)	50千円	加工品開発・漁場環境 (広田水産高)	50千円
漁業学習活動 (宮古水産高)	50千円	生態調査 (宮古水産高)	50千円	オキハモ新製品 (宮古水産高)	50千円	ホアラナゴ製品、宮古湾環境調査 (宮古水産高)	100千円
水産施設研修 (久慈水産高)	46千円	かご漁具・新巻つくり (久慈東高)	50千円	水産施設研修 (久慈東高)	50千円	新巻水産物加工実習 (田野畑分校)	50千円
〇いわて少年海つくり大会 (釜石)	1,331千円	〇いわて少年海つくり大会 (釜石)	1,326千円	〇いわて少年海つくり大会 (宮古)	1,232千円	〇少年海つくり大会等 (4 地区)	599千円
〇少年団・団旗(中野、宿戸少年団)	136千円	〇少年団・団旗(赤前、小本、野田村)、制服(野田村)	355千円	〇少年団・制服(赤前)	130千円	〇少年団・団旗、制服(長内)	300千円
計 23件 2,543千円		計 25件 2,881千円		計 26件 2,562千円		計 31件 2,249千円	

(2) 漁業技術・経営研修事業

平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
(国内研修)	100千円	(国内研修)	40千円	(国内研修)	180千円	(国内研修)	80千円
秋田・イワガキ・ハタハタ (上閉伊漁青連)	100千円	釜石・潜水講座受講 (上閉伊漁青連)	100千円	種市・潜水実技研修 (上閉伊漁青連)	180千円	フォークリフト講習会 (上閉伊漁青連)	100千円
東京築地・貝類等流通視察 (下閉伊漁青連)	100千円	北海道・耐波性養殖施設調査(下閉伊漁青連)	100千円	岡山・カキ養殖加工合理化 (漁業士会釜石)	200千円	函館・藻場造成技術先進地視察 (漁青連下閉伊)	100千円
(海外研修)		(海外研修)	350千円	仙台・活魚市場動向等 (下閉伊漁青連)	100千円	インターネット研修 (漁青連下閉伊)	50千円
なし		韓国・カキ養殖の現状 (漁業士会釜石)	350千円	ハンコン研修 (下閉伊漁青連)	100千円	(海外研修)	
		なし		函館・うに、あわび餌料対策(小子内研究会)	150千円	なし	
計 2 件 200千円		計 3 件 490千円		計 5 件 730千円		計 3 件 230千円	

(3) 漁業青壮年・女性活動事業

① 漁業青壮年活動

ア 試験研究等

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
アラメ海中林の造成(広田)	100千円	エゾイシカガケガイ養殖試験(米崎)	100千円	エゾイシカガケガイ養殖試験(米崎)
ヒジキ養殖試験(越喜米)	100千円	マガキキ種苗生産試験(小友)	70千円	マガキキ種苗生産試験(小友)
ホタテ養殖適正管理等調査(宮古)	90千円	トラフゾブ延縄漁業試験(綾里)	100千円	ヒジキ養殖試験(越喜米)
ナマコ養殖試験(宿戸)	84千円	ヒジキ養殖試験(越喜米)	70千円	イワガキ養殖試験(釜石湾)
		マツモ養殖試験(大槌)	50千円	ホヤ採苗試験(大槌)
		イワガキ養殖試験(釜石湾)	50千円	カキ漁場環境調査(宮古)
		ムラサキイガイ養殖試験(釜石東部)	50千円	アワビ養殖試験(久慈)
		ホタテ養殖適正管理等調査(宮古)	70千円	
		ナマコ養殖試験(宿戸)	70千円	
計	4件 374千円	計 9件 630千円	計 8件 740千円	計 7件 660千円

イ 漁業青壮年交流活動

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
加工業者との意見交換会(気仙漁青連)	50千円	支部情報交換会(気仙漁青連)	50千円	支部情報交換会(気仙漁青連)
試験研究成果等意見交換会(釜石漁青連)	50千円	支部情報交換会(上閉伊漁青連)	20千円	漁業青年のつどい(県漁青連)
支部意見交換会(下閉伊漁青連)	60千円	支部交流会(下閉伊漁青連)	60千円	全国青年女性漁業者交流大会(県漁青連)
漁業青年のつどい(県漁青連)	100千円	漁業青年のつどい(県漁青連)	100千円	
全国青年女性漁業者交流大会(県漁青連)	200千円	全国青年女性漁業者交流大会(県漁青連)	258千円	
計	5件 460千円	計 5件 455千円	計 4件 428千円	計 3件 400千円

ウ 漁業士活動

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
宮城県漁業士との交流会(漁業士会大船渡)	83千円	宮城県漁業士との交流会(漁業士会大船渡)	78千円	宮城県漁業士との交流会(漁業士会大船渡)
漁業士会報等活動(県漁業士会)	270千円	ヒラメ曳釣漁法技術研修会(漁業士会久慈)	50千円	漁業士会報等活動(県漁業士会)
		漁業士会報等活動(県漁業士会)	250千円	
計	2件 353千円	計 3件 378千円	計 2件 297千円	計 2件 375千円

工 地区活動実績発表大会等

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
地区活動発表大会（大船渡） 50千円	地区活動発表大会（大船渡） 50千円	地区活動発表大会（大船渡） 50千円	地区活動発表大会（大船渡） 50千円
地区活動発表大会（釜石） 50千円	地区活動発表大会（釜石） 50千円	地区活動発表大会（釜石） 50千円	地区活動発表大会（釜石） 50千円
地区活動発表大会（宮古） 60千円	地区活動発表大会（宮古） 60千円	地区活動発表大会（宮古） 60千円	地区活動発表大会（宮古） 60千円
地区活動発表大会（久慈） 84千円	地区活動発表大会（久慈） 84千円	地区活動発表大会（久慈） 100千円	地区活動発表大会（久慈） 100千円
計 4件 244千円	計 4件 244千円	計 4件 260千円	計 4件 260千円

② 漁業女性活動

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
全国青年女性漁業者交流大会（県女性連） 200千円	漁協女性部料理展示会（九戸女性連） 200千円 全国青年女性漁業者交流大会（県女性連） 258千円	小学生食普及（大船渡女性部） 50千円 消防婦人部との交流（釜石湾女性部） 70千円 わかめ茎利用加工試験（田野畑浜女性部） 60千円 縫織女性の会との交流会（戸類家女性部） 100千円 全国青年女性漁業者交流大会（県女性連） 256千円 漁村女性活動懇談会（自主事業） 82千円	小学生食普及（大船渡女性部） 100千円 農山女性交流（釜石東部） 40千円 青少年食普及（大槌） 50千円 缶詰製品開発試験（浜岩泉浦） 60千円 全国青年女性漁業者交流大会（県女性連） 250千円
計 1件 200千円	計 2件 458千円	計 6件 618千円	計 5件 500千円

(4) 異業種間交流事業

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（計画）
農林漁業者交流会（上閉伊漁青連） 180千円 青年加工研究会との交流会（釜石漁業士会） 50千円 農業・林業指導士との交流会（宮古漁業士会） 20千円	農林漁業者交流会（上閉伊漁青連） 150千円 農業・林業指導士との交流会（宮古漁業士会） 20千円	農林漁業者交流会（上閉伊漁青連） 200千円 青年加工研究会との交流会（釜石漁業士会） 50千円 農業・林業指導士との交流会（宮古漁業士会） 20千円	林業者交流、釜石・大槌植樹（上閉伊漁青連） 100千円 商工関係者との交流（漁青連九戸） 50千円
計 3件 250千円	計 3件 170千円	計 3件 270千円	計 2件 150千円

(5) 地区協議会

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（計画）
大船渡地区協議会 26千円 釜石地区協議会 19千円 宮古地区協議会 60千円 久慈地区協議会 20千円	大船渡地区協議会 61千円 釜石地区協議会 0円 宮古地区協議会 101千円 久慈地区協議会 40千円	大船渡地区協議会 30千円 釜石地区協議会 7千円 宮古地区協議会 103千円 久慈地区協議会 30千円	大船渡地区協議会 9千円 釜石地区協議会 0円 宮古地区協議会 33千円 久慈地区協議会 32千円
計 4件 125千円	計 4件 201千円	計 4件 169千円	計 4件 73千円

6 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この業務方法書は、財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）寄附行為第38条の規定に基づき、基金の業務の実施について基本的な事項を定め、もって業務の適正な運営を図るものとする。

(業 務)

第2条 基金は、業務の公共的重要性にかんがみ、県、市町村、漁業団体等との密接な連携のもとに、その業務を効果的に運営するものとする。

第2章 漁業担い手育成基金地区推進協議会活動

(目 的)

第3条 漁業担い手育成対策を推進するため、地方振興局水産部単位に設置する漁業担い手育成基金推進協議会（以下「地区協議会」という。）に対し、活動費を支出するものとする。

(活動内容)

第4条 地区協議会の活動内容は、基金事業の推進並びに地区の漁業担い手育成対策に関する内容とする。

(申請及び決定)

第5条 地区協議会会長は、助成事業に係る事業実施主体からの助成金申請書を取りまとめ理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会会長に通知するものとする。

(助 成)

第6条 決定通知を受けた地区協議会会長は、事業実施主体に通知するものとする。

(報 告)

第7条 地区協議会会長は、事業終了後事業実施主体に対し、速やかに報告書を理事長に提出できるよう指導するものとする。

第3章 助成事業

第1節 青少年漁業体験・交流事業

(目 的)

第8条 海づくり少年団等の活動、地域の児童生徒等を対象にした漁業体験学習・交流活動等並びに高等学校のクラブ活動等において漁業に関する学習活動等を実施する場合にその経費を助成し、地域漁業に対する理解を深めるとともに、将来を担う漁業後継者の育成・確保に資する。

(資 格)

第9条 助成を受けることができる者は次のとおりとする。

- (1) 海づくり少年団
- (2) 前号に類する青少年集団
- (3) 漁業体験学習等を実施する漁協、漁業青年組織、実行委員会等
- (4) 沿海地区に設置されている高等学校

(助成額)

第10条 助成の対象となる経費は、海づくり少年団等の活動経費、漁業体験学習・交流活動等経費並びに漁業に関するクラブ活動等経費とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第11条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助成)

第12条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報告)

第13条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第2節 漁業技術・経営研修事業

— 1. 国内研修

(目的)

第14条 先達漁家、企業体、市場、試験研究機関等において、漁業経営、漁業技術又は流通上の課題解決のための研修をする者に対し経費を助成し、地域漁業の中核者として資質の向上を図る。

(資格)

第15条 助成を受けることができる者は、次に掲げる要件を備えた者でなければならない。

- (1) 現に漁業に従事し、研修終了後も引き続き漁業に従事すると見込まれる概ね45歳未満の者。
- (2) 働きながら学び得る資質、体力及び協調性を有する心身ともに健全な者。
- (3) 研修者の引率をする漁協・市町村、県関係職員1名をも対象とする。

(研修期間)

第16条 研修期間は、10日間以内の滞在研修とする。

(助成額)

第17条 助成の対象となる経費は、申請者が個人負担する研修旅費及び教材費とし助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第18条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第19条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第20条 申請者は、研修終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

— 2. 海外研修事業

(目 的)

第21条 漁業の国際化、高度化に対応して、研修を通じて国際的漁業を体得しようとする者に対し経費を助成し、国際的な視野の涵養と経営技術の向上を図る。

(事業内容)

第22条 全国漁業協同組合連合会が実施する「漁協系統海外研修」又は漁業及び漁家生活を内容とした自主的な海外研修とする。

(資 格)

第23条 助成を受けることができる者は、次に掲げる要件を備えた者でなければならない。

- (1) 研修終了後漁業又は漁業に関連する業務に従事すると見込まれる概ね45歳未満の者。
- (2) 働きながら学び得る資質、体力及び協調性を有する心身ともに健全な者。

(研修期間)

第24条 研修期間は、20日以内の滞在研修とする。

(助成額)

第25条 助成の対象となる経費は、申請者が個人負担する研修旅費及び教材費とし助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第26条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第27条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第28条 申請者は、研修終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第3節 漁業青壮年・女性活動事業

— 1. 漁業青壮年活動

(目 的)

第29条 漁業経営の改善等に向けた活動を実施する漁業青壮年グループ等に対し、その活動経費を助成し、

組織活動の充実を図る。

(資 格)

第30条 助成を受けることができる者は次のとおりとする。

- (1) 漁業青壮年グループ
- (2) 岩手県漁村青壮年研究グループ連絡協議会
- (3) 岩手県漁村青壮年研究グループ連絡協議会支部
- (4) 岩手県漁業士会
- (5) 岩手県漁業士会支部

(助成額)

第31条 助成の対象となる経費は、新技術定着化試験等の試験研究、漁業青壮年交流活動並びに地区活動実績発表大会等の活動経費とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第32条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第33条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第34条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

— 2. 漁業女性活動

(目 的)

第35条 地域活性化等に向けた活動を実施する漁業女性グループ等に対し、その活動経費を助成し、活動意欲の高揚を図る。

(資 格)

第36条 助成を受けることができる者は次のとおりとする。

- (1) 漁業女性グループ
- (2) 岩手県漁協女性部連絡協議会
- (3) 岩手県漁協女性部連絡協議会支部
- (4) 漁協女性部

(助成額)

第37条 助成の対象となる経費は、地域特産品開発、魚食普及活動並びに漁業女性交流活動等の活動経費とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第38条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区

協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助成)

第39条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報告)

第40条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第4節 異業種間交流事業

(目的)

第41条 広域で行う漁業に従事する青壮年と他産業従事青壮年との交流活動に対し、その経費の一部を助成し、仲間づくり及び青壮年相互の理解を促進する。

(事業内容)

第42条 事業内容は、話し合い、各種スポーツ、レクリエーション、漁業体験、奉仕活動及びこれらに類するものとし、参加者相互の交流とふれあいに配慮するものとする。

(資格)

第43条 助成を受けることができる者は、交流会を主催する青壮年を中心とする実施組織（以下「実施組織」という。）とする。

(助成額)

第44条 助成の対象となる経費は、交流会開催経費等とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第45条 助成を受けようとする実施組織は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助成)

第46条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報告)

第47条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第4章 特認事業

(特認事業)

第48条 理事長は、予算の範囲内で担い手育成対策上特に実施する必要があると認められる事業（以下「特

認事業」という。)を実施することができるものとする。

(対 象)

第49条 助成を受けることができる者は、第9条、第30条及び第36条のいずれかの資格に該当する者並びに漁業団体とする。

(申請及び決定)

第50条 助成を受けようとする者は、特認事業を希望する場合、関係団体等と協議のうえ別に定める助成金申請書を地区協議会長を経由して理事長に提出するものとする。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第51条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第52条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第5章 雑 則

(委 任)

第53条 この業務方法書の施行について必要な事項は、理事長が別に定める。

(附 則)

この業務方法書は、平成5年3月16日から施行する。

この業務方法書は、平成6年4月1日から施行する。

この業務方法書は、平成15年3月27日から施行する。

この業務方法書は、平成16年4月1日から施行する。

7 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 財団法人岩手県漁業担い手育成基金の業務運営に関しては、財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書（以下「業務方法書」という。）第53条の規定により、次のとおり定める。

第2章 助成事業

第1節 青少年漁業体験・交流事業

(助成額)

第2条 業務方法書第10条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第3条 業務方法書第11条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第11条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助 成)

第4条 業務方法書第12条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第5条 業務方法書第13条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

第2節 漁業技術・経営研修事業

— 1. 国内研修

(助成額)

第6条 業務方法書第17条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第7条 業務方法書第18条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第18条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助 成)

第8条 業務方法書第19条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第9条 業務方法書第20条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

— 2. 海外研修事業

(助成額)

第10条 業務方法書第25条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第11条 業務方法書第26条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第26条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第12条 業務方法書第27条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報告)

第13条 業務方法書第28条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

第3節 漁業青壮年・女性活動事業

—1. 漁業青壮年活動

(助成額)

第14条 業務方法書第31条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第15条 業務方法書第32条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第32条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第16条 業務方法書第33条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報告)

第17条 業務方法書第34条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

—2. 漁業女性活動

(助成額)

第18条 業務方法書第37条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第19条 業務方法書第38条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第38条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第20条 業務方法書第39条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報告)

第21条 業務方法書第40条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

第4節 異業種間交流事業

(助成額)

第22条 業務方法書第44条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第23条 業務方法書第45条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第45条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第24条 業務方法書第46条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第25条 業務方法書第47条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

第3章 特認事業

(申請及び決定)

第26条 業務方法書第50条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第50条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助 成)

第27条 業務方法書第51条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第28条 業務方法書第52条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

第4章 雑 則

第29条 この業務細則に定めがないもので、必要な事項が生じたときはその都度理事長が決定する。

(附 則)

この業務細則は、平成5年3月16日から施行する。

この業務細則は、平成15年3月27日から施行する。

この業務細則は、平成16年4月1日から施行する。

別表1（第2条、第6条、第10条、第14条、第18条、第22条関係）

助 成 基 準 等

事 業 名	助 成 額	摘 要
漁業担い手育成基金地区推進協議会活動	・ 1地区 25万円以内	・ 予算の範囲以内
青少年漁業体験・交流事業	・ 漁業体験学習・交流活動等経費 1少年団又は1行事 5万円以内 ・ 漁業に関するクラブ活動等経費 1高等学校 10万円以内	・ 予算の範囲以内
漁業技術・経営研修事業	・ 国内研修 1チーム 50万円以内 ・ 海外研修 1人 50万円以内	・ 予算の範囲以内 ・ 技術試験等の実施を前提とした研修計画を優先的に採択する。
漁業青壮年・女性活動事業	・ 1課題又は1行事 35万円以内	・ 予算の範囲以内 ・ 継続的な技術試験については単年度毎に試験結果等を評価したうえで継続を認める。 ・ 国庫補助事業等、基金以外の助成事業計画と類似している場合は助成対象としない。 ・ 競技等用具類に係る経費並びに懇親会に係る飲食費は助成対象としない。
異業種間交流事業	・ 1行事 25万円以内	・ 予算の範囲以内 ・ 懇親会に係る飲食費は助成対象としない。
特認事業	・ 別に定める。	

別表2（第3条、第7条、第11条、第15条、第19条、第23条、第26条関係）

申請書提出期日

事業名	申請書提出期日
漁業担い手育成基金地区推進協議会活動	地区協議会開催の1箇月前
青少年漁業体験・交流事業	事業実施の1箇月前
漁業技術・経営研修事業	事業実施の1箇月前
漁業青壮年・女性活動事業	事業実施の1箇月前
異業種間交流事業	事業実施の1箇月前
特認事業	事業実施の1箇月前

年度（助成事業の名称）助成金申請書（実績報告書）

年 月 日

財団法人岩手県漁業担い手育成基金
理事長 様

（申請者）
団体名
代表者氏名 印

（助成事業の名称）を実施したいので（実施したので）、関係書類を添えて下記のとおり申請（報告）します。

記

1 申請額（報告時は不要、円単位）

2 実施計画（実績報告）

目 的	
実施時期	
実施場所	
内 容	

3 収支予算（決算）書

(1) 収入の部

区 分	予 算 額	決 算 額	備 考
漁業担い手育成基金助成金			
そ の 他			
計			

(2) 収入の部

区 分	予 算 額	決 算 額	備 考
報 償 費			
旅 費			
需 用 費			
使用料及び賃借料			
そ の 他			
計			

年度（助成事業の名称）助成金交付決定通知書

岩漁基第 号
年 月 日

（申請者） 様

財団法人岩手県漁業担い手育成基金
理事長

年 月 日付けで申請のあった 年度（助成事業の名称）については、
金 円を交付します。

年度（助成事業の名称）助成金請求書

年 月 日

財団法人岩手県漁業担い手育成基金
理事長 様

（申請者）

団体名

代表者氏名

印

年 月 日付け岩漁基第 号で交付決定のあった 年度
(助成事業の名称) について、金 円を請求します。

記

助成金振込先

金融機関名			
口座種目	普通・当座	口座番号	No.
ふりがな			
口座名義			
住所			
電話番号			

